

私は古い中国大好き人間で、この20年来毎年の様に、大連から天津、北京から万里長城へ、鄭州の黄土高原、崑洞、洛陽、竜門石窟の廬舎那仏、重慶から大足、白帝城を望む三峡下り、南京から「麦と兵隊」で唄われた徐州へ、上海から蘇州寒山寺、蘭州から敦煌莫高窟、西安の兵馬俑……と、中国4千年の奥深く限りない魅力に惹かれて旅を続けています。

3年前から兄弟、家族、老友達を誘って大躍進する中国・古代中国と案内しています。今年は中国に全く初めての人が多かったので、万里の長城を選びました。孫娘を除くと十六名の男女は、平均年齢男性七十二歳、女性六五歳の高齢者達でしたが、八達嶺からの長城を元気で登り切りました。まさに百聞一見にしかずの嘆声が上がりました。

かつて国家予算の半分を使ったと言われる明の十三陵（墓）、独裁者の無駄遣いがやがて国を滅ぼして行った証明の墓でもありました。

オリンピックを目前に控えた北京はまさに大バブルに湧く絶頂期と思われました。かつて雲霞の様な自転車の大群は、自動車の大群となって何処へ行っても渋滞でした。北京周辺はワーゲン車が多く、ガイドは「でも優秀なのは日本車、特にホンダが評判いいです」と一政府もバブル崩壊を恐れて懸命に抑制策を取っているが、焼け石に水の様で、全く抑制効果は見えないようです。

この中国バブルは農村と都会に物凄い格差を生んでおり、最近では利権に絡む贈収賄の乱脈ぶりは、農民、労働者がいつ暴動を起こしてもおかしくない情勢だとのこと。思うに靖国参拝、領海問題が大きく中国で取り上げてアジって？いるのは、国内の不満を外へと目を向けさせているのだと私には思えました。

中国の人口は凡そ13億、広大な大平原、大砂漠、高原、山脈には少数民族が55族もあり、戸籍さえない地域が点在しているので実態は分からないと言われます。

かつて大農業国だった中国——今でも人口の70%を占める農民は自給自足がやっただと言われ、都市部に5千万人の富裕層が生まれてから？一気に世界最大の食糧輸入国へと変わりました。

日本の食糧自給率40%を思う時、すでに世界の食糧戦争はすでに始まっていることを自覚すべきであります。農業の基本は水であります。食糧を求めて農地を拓げ、水を大量に求めて行けば今世紀中に北京は砂漠化するとガイドは嘆いておりました。

最後の晩は雑技団のショーでした。この子らは貧しい農村で生まれ育った子供達です。生きるために厳しい訓練を乗り越えて会得した技です。

この子らを見ていると、人間の潜在能力は計り知れないものです。この子供らの能力を百とすれば一般の私たちは四分の一しか使っていません——とガイドが話しておりました。

今中国は夢を追って懸命に走っています。かつての日本の様に……

私達も今一度、夢を追いかける意欲を取り戻したいものです。と、今回の中国の旅で教えられました。